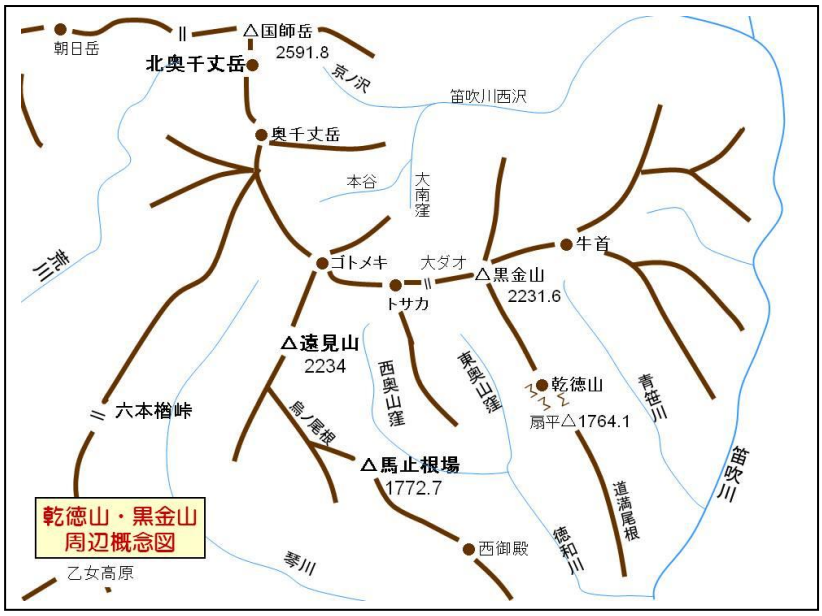
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

奥秩父	乾徳山と黒金山	No.174



職場の非公式な「若者の集い」と称する軽い山歩きの仲間の中から「どこかへ行こうか」と声があがり、この山行が決まった。
そして、まだ行ったことのない乾徳山へ行ってみようかということになった。
乾徳山と黒金山は奥秩父主稜線の前衛にある山々の一番奥で、まさに奥秩父を守っている城壁のような山である。笛吹川の源流が作った山のきざみもさることながら、それぞれの谷につけられた名前が美しいので地図を見ているだけで引き込まれる。
徳和川には東奥山窪・西奥山窪・お経窪・三枚窪・弥次郎窪など「窪」と名のついた沢が目立つ。その西側に琴川などなど。

昭和４７年１０月９日
22 時新宿駅南口に集合、メンバーはＯ君とＴ君の二人。

昭和４７年１０月１０日
臨時列車の甲府行は 0 時 08 分発、車内はガラガラで楽チンな夜行列車。
塩山 2 時 35 分着。列車はガラガラだったが、バス待ちは行列。
三台目の臨時バスに乗ることができ、しかも座席も確保。臨時バスは 3 時 20 分に駅を出発。
徳和の売店で火にあたりながら朝食と 30 分ほどの仮眠の後、5 時に出発。
徳和は海抜 900m程度なので 2000mのピークまで登るのはかなりハードだ。ただひたすら登り続ける。
振り返ると朝の赤い富士が慰めてくれる。
大平牧場のしぼりたての牛乳を 60 円で飲んで活力アップを図ったが、味はなんだか薄い感じがした。
富士のほかに南アルプスの主要な峰たちも視界に入り、途中の息抜きが楽しくなってきた。
甲斐駒、鳳凰三山、白根三山、塩見、荒川・・・、文句なしの眺め。
ススキが光に輝く扇平を過ぎると、鎖がついた岩場が目立つようになってきた。
乾徳山頂上到着は何時だったろうか、メモがない。
岩の上の頂上は人人人・・・で満員。近くの山々は紅葉また紅葉。その色づきの中に黒金山だけが縞枯模様で、よく目立つ。混雑を避けて、黒金山へ向かう道を少し進んでから道端で昼食。コンロのノズルオープナーが折れてしまいやむを得ず焚火で湯を沸かしてしのいだ。
黒金山 13 時 30 分着。海抜 2231.6m、北側は谷を挟んで奥秩父の主峰国師と甲武信。30 分の休憩で切り上げて大ダオへ。海抜 2000mの大ダオから東奥山窪を標高差約 1000mの下りで徳和に帰着。
塩山からの帰りの列車は満員。
辛うじてデッキに立ったままで発車。途中で来た車内販売のおっちゃんから笹子餅を買ってお土産にした。

以上